

令和4年度 学校関係者評価・第三者評価報告書

奈良学園幼稚園

本年度は、新型コロナウイルスに対する防疫対策もあり、学校関係者評価・第三者評価の機会を次のように複数回設けた。

I 学校関係者評価・第三者評価委員会(幼小中高合同)

日 時：令和4年11月24日 9:30～11:30

令和4年 3月 6日 9:30～11:40

II PTA 関係者による学校関係者評価委員会(幼稚園)

令和3年11月 19日 9:00～10:20

令和4年 3月 1日 レポートで提出

それぞれにいただいた評価を次にまとめ、報告する。

I 学校関係者評価・第三者評価委員会

1. 日 時：令和4年11月24日(木) 9:30～11:30

はじめに、本日の予定を確認後、幼稚園の英語活動、小学校の授業の様子、M3学年(中学1年)の英語の授業後を指導いただいた。

2. 評価者：前田 康二 (奈良教育大学 教職大学院 教授)

3. 出席者：安井教育総括監、兼中学校・高等学校長、梅田小学校長、谷川幼稚園園長
立花中学校教頭、中野事務長
菅田高等学校教頭(司会)、岡井小学校教頭(記録)

4. 幼小中高の今年度重点取り組みについて進捗状況の報告及び第三者評価者としての評価について

①参観・施設見学の感想

- ・施設・仕組みに関して、幼稚園と小学校がつながっていることや園児の手の届くところに自然があることはとても良い。
- ・幼稚園から英語教育がしっかりできている。年長児がアルファベットのワークブックを使っていることに驚いた。さらに参観してアルファベットの音を大切に指導されていることもよく分かった。
- ・体を動かして英語を学ぶ Total Physical Response (全身反応教授法) を取られているのは、とても良く、ALT と担任がそのことをよく理解できている。
- ・幼児に英語を無理に話させる必要はなく、たくさん英語を聞かせ、体を動かして楽

しむことで十分だが、動作ばかりになっていたので、欲を言えばこの単語だけは言おうなどともう少し口が動くような働きかけがあればよいと思った。

- ・小学校の児童の新聞づくりを見て、しっかり纏められていた。構成も内容もしっかりしていて、またしっかりした文字で書かれていたこともとても良いと感じた。
- ・中学校の授業で ICT を活用した英語のクイズのようなものをされていたが、基礎的な練習が必要な部分がカバーされていた。タイピングをして回答しないといけないことは、生徒にとって大変なことかもしれないが、タイピングも今の時代には必要なことなので、英語の基礎的な力（読む・聞く・話す）の反復練習とタイピングの練習が合わせて行えるのは良いと思った。
- ・見学中に話があった縦割り活動（幼稚園内・小学校内・幼小交流）はとても良く、子ども同士が育てる・育ててもらう関係が大切で、見学を通じて人との関わり方が上手になっていくことを改めて感じた。社会人になって職場での上下関係が難しいことから、奈良教育大学でも上級生が下級生に教える機会を設けている。

②各校種（幼稚園、小学校、中学校・高等学校）からの報告

（資料 別紙） 奈良学園登美ヶ丘中学校・高等学校 中期計画

奈良学園小学校中期計画

奈良学園幼稚園中期計画

【幼稚園】

- ・園児募集に関して未就園児保護者に対してホームページでの動画掲載や web 広報にも力を入れていこうとしている。
- ・「元気なならっこ約束運動」の実践の充実、「はばたくなら」の取り組みにも力を注ぎ、園児の生活習慣や学習に向かう力の育成ができるように取り組んでいる。
- ・合同運動会の実施や中高の自然再生研究会の園児に向けての取り組みから、上級生から刺激を受けるとともに上級生に憧れる気持ちを持つようになった。
- ・マーチングやリズム表現、劇遊びや絵画工作などさまざまな保育において子どもたちのやりたい意欲を沸き立たせながら進めている。
- ・日本の文化伝統にも力を入れている一つの取り組みとして、毎日、黙想素読で漢詩や万葉集、ことわざに触れたり、礼法や日本の行事を体験したりもしている。
- ・合理的な配慮の必要な子どもに対する手立てや配慮児童の保護者に対しての声掛けなどで、臨床心理士からの教員への指導助言があることで有効に進められている。

【小学校】

- ・今年度の重点的な取り組みとして、児童募集、探究学習や個別最適化など教育改革を先導する学校の取り組みの特色をさらに打ち出すこと、昨年度に達成できな

った行動内容について実施に向けて進めていくこととして進めている。これらを進めるにあたって、教員に重点取り組みを示し、小学校全体で取り組もうとしている。

- ・前期を終えた現在、事業計画について順調に実施できている。その一例として、学び委員会を立ち上げ、そこで実施内容を決定し、学校全体の取り組みに繋げていく体制づくりを行っている。
- ・広報活動として、web 広報の効果もあってか大阪方面からの受験者が昨年度より微増。内部幼稚園からの進学者増に向けて幼稚園と連携しながらさらに進めていく。
- ・ユネスコスクールへの申請について、コロナ禍で進めることが難しい状況であったが今年度探究活動の見直しとともに進めている。

【中高】

- ・youtube 学校紹介動画を更新（探究活動版）したり、紙ベース広告から web 媒体広告の拡充を進めたりするなど、募集活動の質的向上を行っている。
- ・教員の資質・教育力の向上として、1学期は各教員が授業を見合う授業交流週間を行い、2学期には「ICT 機器を活用した授業展開」を中心とした公開研究授業を行っている。11月末には英語ネイティブ教員の公開授業も行う予定している。
- ・奈良学園大学保健医療学部と連携して、傷害予防及びコンディショニングに対するアクションリサーチ（運動時のウォーミングアップの方法やけがの防止について）の共同研究を行った。
- ・放課後支援学習システム「尚志館」の充実として、新 M3（中学1年）より質問対応付き自習室の開設や「尚志館」の運営指導員体制の整備を行う。
- ・本学園の特色である「3+4-4-4（幼小中高）教育連携の充実として、M3 英語で内部小学校でのアドバンテージを活かすグレード制の導入や、7月には中高生が主体となって活動する「自然再生研究会」による幼稚園交流を実施した。
- ・進路指導の充実と生徒の第一志望合格の実現に向けて、基準 GTZ の達成度について職員会議で周知し、対策を検討する。
- ・新進路指導室の整備と指導の充実として、医学部専門予備校との連携（「医学部入試対策講演会」の実施や Y4（高3）医学部志望生徒への面接や小論文指導）を行う。
- ・大学探訪～OB・OG を訪ねて～の拡充（中3～高2生対象）を行う。11月に京都大学探訪を実施（生徒19名、OB・OG14名参加）、12月には大阪大学探訪を予定している。
- ・グローバルリーダーの育成として7月末に行われた WWL 事業高校生国際会議への参加（Y3生8名参加）やコロナ禍で実施できていなかったターム留学（Y2・Y

- 3 生より 10 名参加) や AUS 研修 (Y3 生 42 名) の実施を予定している。
- ・探究学習では、Y2 学年の自由探究カリキュラムやルーブリック評価表の作成、中間報告会の実施など探究学習を推進する。
 - ・ICT 機器の拡充と活用として、ICT 機器を活用した授業展開というテーマで公開研究授業や ICT 活用について三校合同 (本校・奈良学園 (郡山)・奈良文化高校) 研修会を実施した。

5. 評価者より

授業・施設見学、各校種からの報告を受けて以下の質問 (●) とご意見 (○) をいただく。

- 幼小中高の広報活動の web の充実とは具体的にはどのようなことをされているのか
→LINE の公式アカウント登録者に説明会や見学会の発信や youtube で 6 秒動画配信を地域や年齢など対象に合わせた配信を行ったりしている。
- 教員研修についてどのように行っているのか。
→各校種で研修会を企画し実施している。小学校では私立小学校連合会の研修会が教科ごとに行われている。私学は公立とは違い、教育センター等の研修を提供してくれるところがないため、学校として研修の場を作らないといけないので、校内では今年度であれば ICT や特別支援に関する研修会を実施したり、学期ごとの管理職との教員面談で学外の研修会への参加を促したりしている。
- 異学年交流の取り組みはとても大切なことである。本校ほど計画的・継続的に行われているところは他にはないのではと思う。自然再生研究会の取り組みはとてもよく、異学年交流が子どもたちの発達にとっても有効だと感じた。また、子どもたちが将来社会に出た時に、先輩が後輩に指導の仕方が分からないという課題に対して解決していけることになると思う。
- 外国語活動は、幼稚園から充実したもので、園児の反応が小学生と同じで驚いた。他校で見ると先生が言ったことに対して反応する様子が見られないこともある。本校の活動が積みあがっていくと良いものになると思う。
- 留学の再開について、中学や高校で留学する生徒が増えると大学での学び方が変わっていくので、良いと思う。子どもたちが様々な文化や考え方に触れることで、多様化する教室に対応できるようになっていくと思う。

1. 日 時：令和 5 年 3 月 6 日 (月) 10:00~11:30

はじめに、本日の予定を確認後、小学校の英語の授業の参観後に指導いただいた。委員会終了後に M1 (小学 5 年)・M2 (小学 6 年) のいのちの授業 (助産師による性教育の出前授業) も参観いただいた。

2. 評価者：前田 康二（奈良教育大学 教職大学院 教授）
3. 出席者：安井教育総括監、兼中学校・高等学校長、梅田小学校長、谷川幼稚園園長
日比小学校教頭、中野事務長
菅田高等学校教頭（司会）、岡井小学校教頭（記録）
4. 幼小中高の今年度重点取り組みについて進捗状況の報告及び第三者評価者としての評価について

①参観・施設見学の感想

- ・Kahoot!を使用して語順やスペル、適切な応答の仕方などの基礎的な知識を楽しく学べるので、とても良い。
- ・スペリングに関して公立小学校の5、6年生より定着しているように感じた。
- ・（一場面しか見ていないが）問題で出てくる単語や文を発音する場面があれば、イメージと言葉などが結びつき、もっと学習内容の定着が見られるのではないかと感じた。

②各校種（幼稚園、小学校、中学校・高等学校）からの報告

（資料 別紙）奈良学園登美ヶ丘中学校・高等学校 学年末総括資料（学年・分掌・各種委員会）

奈良学園小学校 学年末総括資料（学年・分掌・各種委員会）

奈良学園幼稚園 学年末総括資料（学年・分掌・各種委員会）

【幼稚園】 谷川園長より今年度の園の活動について説明

- ・コロナの感染対策で実施できなかった行事が行えるようになってきた。生活発表会で園児はしっかり劇を演じるなど表現することができた。
- ・「元気なならっこ約束運動」の取り組みとして、地域の方に勤労感謝を園児の言葉で伝える活動をするなど、地域でも実践できるようになったり、規則正しい生活習慣づくりを目指す「早寝早起き朝ごはん」運動を推進したりしてとして文部科学大臣賞を受賞した。

【小学校】 梅田校長より総括資料（分掌・委員会）の重点内容について説明

学校経営計画に挙げている重点目標（学年・分掌）をもとに各学期をふり返り成果や課題を、次の学期繋いで重点目標を達成に向けて取り組んでいる。

○校務分掌 教務部

- ・英語のデジタル教科書の実証実験にも参加し、デジタル教科書の採択に向けての

動きを持った。

- ・公簿や成績処理をすでに校務処理システムを使用しているが、校務 DX を進める上でも検討していかないといけないと状況の中、過渡期として取り組んでいる。

○生徒指導部

- ・防犯や交通安全について学校だけで指導するのではなく、外部講師を招いての取り組みも行っている。
- ・いじめに関することについても外部講師を招いて研修を行った。
- ・次年度は、現在の児童に（防犯、交通安全、いじめに関するもの）学習機会を設けている段階から、それらのことについて生徒指導という点で児童にせまっていくかなど児童への関わり方について教員の指導スキルを高めていかなければならない。

○総務部

- ・コロナ禍での式典のあり方を幼小中高のつながりを考えた対応を検討している。

○研究研修部

- ・コロナ禍で全体が集まったの授業公開が難しかったため、全体研の回数を限定的に持ちながら教員間で交流授業の機会を各学期 1 回持つようにした。
- ・シンキングツールの活用のスキルをつけようと教員全体で推し進めようとした。
- ・全教員が公開授業において道徳の授業を実施し、道徳の授業の位置づけが小学校の中で重みをもつことができるなど効果があった。
- ・次年度も公開授業で道徳の授業を行うこと、教科研究についてはどのような方法で研究を進めるかを検討することなど授業力をつけていかなければならないと考えている。

○保健部

- ・保健部が中心となって感染対策を行えた。
- ・ダスキンの指導を受けながら小学校全体で統一した清掃方法や衛生清掃を導入することができ、美的環境を維持する清掃から衛生環境の維持する清掃に変化してきた。導入した清掃方法を児童に定着させるためには、教員の理解が大切なため、一層教員の理解を高めていけるようにしていく。

○広報部

- ・入学希望者を増やすために行った個別見学、Youtube 動画広告、リスティング広告が効果的であったので、次年度も継続していきたい。
- ・幼稚園からの内部進学生が減ったので、幼稚園と連携して内部進学生が増える取り組みが必要。

○one to one 委員会

- ・3年生以上の chromebook の使用をさらに効果的にするために一人一台端末を持っている状況での chromebook を持ち帰る意義についても検討を進めている。

- ・自分自身が判断してデジタル機器を活用するところまで持っていくためにどのような方法で向かっていけるのかを課題としてデジタルシティズンシップ教育の推進に向けて進めていこうとしている。

○キャリア・探究

- ・今年度ユネスコスクールに応募して来年度はチャレンジ校としての取り組みを1年間行う状況。支援担当大学の奈良教育大学の支援も受けながら様々な取り組みをしっかりと進めて自立した児童を育てたいと考えている。

【中高】 安井校長より総括資料（分掌・委員会）の重点内容について説明

- ・「伸び率日本一」をスローガンに大学進学に向けて必要な総合的な学力をつけていくことだけでなく、大学に入学や社会に出てから必要とされる非認知能力をつけていくために大学の学びにつながるゼミ形式の探究学習（今年3年目）を進めている。
- ・その他の特色として海外語学研修として高校2年生がオーストラリアに2週間短期留学やターム留学を行っている。世界につながる行動力という点では、プログラムベースの留学、イベント、各種コンクールなどのプログラムベースのところに日々の学習を積み上げていく場合もあり、授業の中でもグローバルコンピテンスプログラムを目指す。

○教務部

- ・前年度より研修を重ね、今年度は高校1年生より観点別評価を確立するよう進めている。
- ・昨年度試験的に実施した生徒アンケートを今年度は全員回答で実施する。生徒の学校生活の満足度、自己肯定感、自尊感情を問う内容を取り入れている。また各教科の授業の分かりやすさも問いにあり、教員の授業改善にも繋がるような内容も取り入れている。
- ・研修について1学期はお互いの授業を見合うことを目的として授業交流週間を設け、2学期にはテーマを設定して各教科の代表の教員による公開授業を行った。今年度はICT機器を活用した授業づくりを中心に行った。
- ・尚志館（大手の個別指導塾と連携した放課後の学習支援システム）の充実を行う。放課後の自習室にチューターをつけたり、オプションとして各教科の個別指導を行ったり、定期考査の計画の立て方や考査後の復習の仕方などメンタル面でのコーチングをしてもらったりしながら行っている学習支援システムを改善していこうということで、本校の卒業生をチューターに入れることを行った。また本校を退職された教員もチューターになれないかなど運営仕方について教務を中心に検討を行っている。

○進路指導部

- ・模擬試験ごとに各学年目標を設定して、各試験目標に到達しているかを確認しながら進めている。
- ・コロナ禍で中断していた京都大学や大阪大学への大学探訪が行えるようになった。両大学合わせて約60名の生徒が参加した。本校のOB・OGも参加してくれ、施設の見学だけでなく、試験勉強の乗りこえ方や大学での最先端をいく研究の内容や志望校の決め方など、5、6人に1人のOB・OGがついて対応してくれた。
- ・中学校3年生で各大学から先生をお招きして大学模擬授業を実施しているが、今年度の高校3年生に中学3年で受けた奈良学園大学の周産期医療専門の先生の講義がきっかけでその道に進みたいと京都大学の特色入試に合格した。入試の前には面接や学びの設計書作成でも奈良学園大学の先生にご指導いただくなど、高大連携の取り組みの成果であった。また、今年度もう1名京都大学の特色入試で理学部に合格した生徒がおり、その生徒は小学校の理科教員の指導を受け、自然再生研究会を立ち上げて研究内容を学会で発表を行ったり、本校幼稚園児にも自然についての交流を行ったりするなど幼小中高連携の取り組みとなる活動も行ってくれた。
- ・今後は進路指導において個別の成績のデータベース化を進めていけるようにしたいと考えている。

○生徒指導部

- ・中学校、高校で数件の特別指導が行われた。高校での指導は少ないが、中学校でいじめにつながる可能性のある内容での指導が数件あった。中学生は基本的な生活習慣や規範意識を身につけていく指導が必要であると考え、あいさつの励行や教員と生徒のコミュニケーションにも意識して取り組んでおり、その成果は出てきている。さらに生徒に気になる状況があれば、校務処理システムを利用し、全教員で指導及び支援が必要な生徒の情報共有している。
- ・生徒全員がchromebookを所持しており、使用については自由度を高めていく指導を行っているが、中には「死にたい」などの検索を行い見守りフィルターにかかる生徒もいるが、その情報が入れば、担任、教育相談係、生徒指導部とも共有して生徒観察や指導にあたれるようにしている。

○総務部

- ・学校全体の行事において組織的に計画、実施することができた。来年度は各学年の宿泊行事においても各学年の繋がりや意義についても確認していく。

○保健部

- ・保健部が中心となってコロナ対策を行った。一部の部活で数人のコロナ罹患者が出て活動が中止になったが、教員の協力も得ながら学校の方針通りのコロナ対策を進めることができた。

○広報部

- ・中学入試の方法制度（複数受験者に加点、入試日程ごとに受験料を納めてもらう）を改定した。制度変更による受験者数の変化はなかった。
- ・受験者数は減ってはいないが、入学辞退者がいることから併願としての志願者が多いように思われる。専願者を増やしていくことが課題である。そのために、以前からも取り組んでいるが本校のより知ってもらうために新聞雑誌等の紙媒体から web 媒体の広報へ進めている。

○人権推進委員会

- ・教員の人権意識の再確認を目的に今年度は部落問題に関する教員研修を行った。
- ・道徳の内容も検討し、確実に道徳の時間をとっていくようにしている。
- ・全学年で人権作文を教材化してそれを活用した HR を行う。

○生徒会指導部

- ・尚志祭（文化祭）では、コロナ禍の中での制約のある中で生徒が中心となって計画や運営を行えた。小学校との合同企画なども行っているがさらに良いものになるように検討していく。

○国際交流部

- ・コロナで実施できていなかったターム留学やオーストラリア研修が行えるようになった。
- ・WWL（国際高校が拠点校）の活動に運営指導員として本校生徒が8名参加している。今年度は夏の高校生の大会でスタッフとして参加してくれた。昨年度は英語での発表で関わってくれた。
- ・Y3（高2）で実施しているオンライン英会話を来年度から M3（中1）・M4（中2）でも実施を予定している。
- ・中学生もオプションで希望者の海外研修（シンガポール）を画策している。希望者は滞在大学に進学できるように連携も検討している。Y1（中3）・Y2（高1）対象の進路講演会でも説明させてもらっている。

○探究活動

- ・今年で3年目の活動 学年ごとにテーマをもって取り組んでいる。各学年で発表会を行って学年代表を選び、学年代表は他校参加の大会へ出場している。今年度はY1（中3）学年でソーシャルチェンジというテーマで本校から2チームが全国大会（参加チーム数80チーム）に出場した。うち1チームは、ベスト10に入り決勝に進出した。
- ・探究活動での学びは、自由な発想を持てるようにすることとともに教科学習にフィードバックし、自分の興味関心に早く気付きながら専門的に学びたいという考えを持たせたいと考えている。

5. 評価者より

授業見学、各校種からの報告を受けて以下の質問（●）とご意見（○）をいただく。

【幼稚園に対して】

- 文部科学大臣賞が早寝早起きの取り組みだけだと思っていたが、多くの取り組みを総合して受賞されたことが分かった。取り組みの内容をもう少し教えてもらえないか。

→元気な奈良っ子は「早寝・早起き・あさごはん・あいさつ・お手伝い」を約束として取り組みで、きっちりしたあいさつしましょうであったり、しっかりおうちの人のお手伝いをしたり、感謝の言葉を自分の言葉で伝えられるようになりましょうということをごくごの場面で取り入れてやっている。朝ごはんに関しては、どんな朝ご飯を食べているかを年長児に絵に描かせる取り組みを行った。どちらの取り組みも保護者に朝ごはんの大切さや基本的な生活習慣や規範意識などを意識してもらうことも目的にしている。年長の朝当番を見て、年少や年中も園児もあいさつをするようになったり、保護者も園児にあいさつすることの大切さを意識して伝えてもらえたりする様子が見られた。今年度、勤労感謝の日に園児5、6人ずつに分かれて地域の方（病院や薬局など）にあいさつに行った。園児が地域の人にありがとうと言えたことがとてもうれしそうだった。朝ごはんを食育としてとらえ、園で栽培した野菜を使って料理するなどの活動もした。様々な取り組みを総合的に評価していただいたと思っている。

- 元気な奈良っ子の取り組み内容や園児や保護者の様子を聞いて、家庭や親御さんへの意識付けに良い効果が出ているのがよく分かった。

- 幼稚園の広報はどうされているのか。

→今年度、入園希望者が少なかったので、3歳児の保育を体験してもらったり、2歳児の保育が休みになっている月曜日に1歳以下の子どもと保護者の親子で楽しむ機会を設けたりした。HPを見ていただいているのか、新規の方も申し込んでいただけるようになった。来年度にもつなげられるようにしていきたい。

→ターゲットの地域や年齢対象にピンポイントで募集広告を送れるようになった。始まったばかりだが、効果が出ればと思っている。

- 総括表の幼小交流に良い評価がついていないがそれはなぜか。

→年間で幼小交流の行事はあるが、行事で集まるだけでなく、普段の長い休み時間に幼稚園の園庭に小学生が遊びに来れたり、園児も小学校の運動場に遊びに行けたりなどできたらと考えているが、コロナで思うように進まなかったことなどから低い評価となった。

【小学校に対して】

- 校務システム、デジタル教科書、デジタル採点などを導入されているが、先生方は新

しいシステムへの対応はどのようになっているか。

→成績処理や公簿の処理をアナログで行っていたものが、入力するだけでよい状態になってきていることに対して処理の方法がわからないということは全くないが、新しいシステムばかりに頼るのではなく、その（公簿や成績処理の）仕組みがどのように進めないといけないのかを理解したうえで、間違いが生じないかしっかり点検しながら行っている。

→デジタル教科書については、全ての教科をデジタル教科書で進めるということではなく、より効果的な教科や単元を見定めていくことが必要だと認識している。しかし、今後、デジタル化の流れを避けて通ることはできないので、効果的かつ効率のいい形で学習活動ができるような使い方を教員で検討していかなければと考えている。

→システムの使い方については、不得意な教員は得意な教員に教えてもらったりしながら、全体に使用方法を広げていっている状況。

○（英語の）授業を見て、一人一台端末で作業したり、学習したりする活動があったり、ハワイ交流校との交流されている様子から、奈良学園小学校では授業の中でのデジタル活用が進んでいるように感じた。

○式典など必要なところは校種を超えて統一を図っていることは、保護者や外部の人から見ると一貫性があることはとてもいいことだと思う。

●ユネスコスクール認定に向けて支援大学からどのような支援を受けるのか

→

【中高に対して】

●観点別評価を行うにあたって教員の悩みなどはないか。

→昨年度から評価は学期末や学年末に行うのではなく、単元ごとに各観点について評価することで、学習の過程を見ることで生徒に次の目標を持たせたり、授業改善にもつながったりすることを理念として進めている。どの場面で誰（教員・生徒）がどのように評価するなどにも検討している。中学校でも先行して観点別評価を行っているので、その状況も参考にしながら進めている。

●オーストラリアの海外研修には参加希望はどれくらいあったのか。

→オーストラリア研修には42名参加希望。ターム留学（高1・高2で募集）は約25名の希望者があり、筆記試験や面接をし、最終10名が参加することとなった。募集し始めた時は、コロナがどう収束していくかという状況であったが、是非とも行かせてやりたいという保護者の強い思いもあったので、保護者の理解を得ながら実施に向けて進めた。コロナ前は高校2年の学年全員で実施していたが、今回は希望者のみで実施することとなった。今回は一人一家庭でのホームステイ、受け入れ校は2校で実施している。

○国際交流を進める学校は多くあるが、生徒が海外へという考えまでいけない学校が

ある中でターム留学や海外研修を希望する生徒がいるのは、本校の取り組みがうまくいっているからだと思う。

●探究学習の授業動画やワークシートを保存してそれをどう活用しているのか。

→各学年でテーマが定められているが、実施状況（活動時間や年間時数など）が違うので他学年の教員が活動の様子や内容をリアルタイムで見ることができないので、中間及び最終発表会を録画し、いつでも教員が見られるようにしている。

○幼小中高の英語の取り組みを見せてもらって、各校種での英語教育が単に言葉の教育にとどまらずに国際理解教育や世界に目を開くなどもっと広い世界に憧れを持つなど、それぞれの段階で効果的に指導されているように感じた。そしてその教育が説明にもあった高校での留学への意識につながっているようにも感じた。

Ⅱ PTA 関係者による学校関係者評価委員会

1. 学校関係者評価委員会 …第1回令和3年11月19日 9:30～11:30
第2回令和4年3月1日 レポートで提出

はじめに、今年度の取り組みに関して、概要の報告を行った。

あわせて、昨年度の自己評価・関係者評価の結果と今年度前期アンケート分析結果および後期アンケート集計結果をお渡しした。本園の今年度の取り組みに対するご意見を求めた。

2. 評価者名 …奥田 一子, 細水 友美恵 (PTA 関係者)

3. 評価結果

【大項目】

I 教育活動に関するもの

・コロナ禍で、活動が制限される中運動会やマーチングフェスティバルなどを工夫して、感染拡大防止を最大限に考慮した上で、子ども達の成長を見せてもらえる機会となるように取り組んでもらえた。

・11月の評価委員会において、ゆっくり保育を参観出来たことで教師が子どもの発達段階に応じた保育活動が出来ていると感じた。そのために日々の保育計画の立案や行事の準備など、目に見えないところで教師の苦労があるのがよく分かった。

・コロナ禍で頻繁に園の様子が見れない中、毎月のえんだよりやクラス便りにて、沢山の写真に合わせて日常の様子を書いてもらって園での様子が伝わって安心出来た。

・毎日の降園時間でのコールでも日々の様子が伝えられるので安心出来た。

【中項目】

(1) 教育目標・教育計画

・毎日の生活の中で、他学年と遊んだり、お世話をすることによって思いやりや助け合いを学んでくれていた。また、園庭や棚田での外遊びの中で植物や生き物などに触れ合い、心身共に成長する機会がたくさんあった。

・年長児には、小学校の教室にて日頃から知っている先生に体験授業をしてもらい、小学生になることがさらに楽しみになる機会になったように思う。一貫校ならではの素晴らしいところだと思う。

(2) 教科指導

・日々の保育は行事の練習の他に自由遊びや絵画制作・リズム・運動・英語などのバランスのよいものとなっており、子ども達が楽しめるようにメリハリのある園生活となるように工夫していると感じた。

・うきうきタイムや中高サッカー一部の先生が指導して下さって、身体を動かす事も重点的に行われていた。コロナ禍で礼法をする機会が少なくなったが、少しでも経験出来たことはとても貴重な経験となった。

・子ども達の興味や関心を引き出し、途切れないように日々工夫して、計画したり工夫したりしている。

(6) 生徒指導

- ・基本的な生活習慣において、「元気なならっ子約束運動」「はばたくなら」に積極的に取り組まれていて保護者も共に子育てを考える機会が出来た。「自尊感情・学習に向かう力・規範意識」といった非認知能力を育むことは幼児期に一番大切なことであると感じている。

【大項目】

Ⅱ 学校経営に関するもの

【中項目】

(1) 組織運営

- ・教員が不足しているという状態であるが、現在の先生方はいつも明るく温かく保育に携わっているので、先生方の負担を減らす意味で、学園挙げて教員数を増やすことに尽力して欲しい。

(3) 安全管理

- ・早め早めにコロナ禍での防疫の対策をとっていただいている。消毒など教師の負担が増している中、少しでも教師数を増やすか、臨時にでも仕事を軽減できるように雇用されることを希望する。

(5) 地域等との連携

- ・勤労感謝ウィークをもって近隣の商業施設に赴く幼児の姿には、好感が持てる。地域からも温かく見守っていただける機会となっていると感じる。